

■ 札幌ふるさとの樹木 ■

その8: シナノキ・シナノキ科

シナノキのシナは

- ①アイヌ語の「結ぶ、縛る」の意による。
- ②樹皮がシナシナすることから。
- ③樹皮がシロイことから。

など諸説がある。

日本特産種で日本各地の少し湿った肥沃地に生育する。7～8月、淡黄の花を咲かせる。花序は散房。葉は互生で、円形に近い心臓形。長さ4～8cm。

葉の表面は濃緑色、裏面は粉白色、ほぼ無毛（脈上にはのみ軟毛が密生）。近似種オオバボダイジュの葉はガサガサしており、葉脈のしわが目立つが、葉裏には細かい毛が密生している。一方、シナノキの葉はかなりツルツルしている。

また、シナノキの葉の裏はほぼ無毛であるのに対し、近似種のオオバボダイジュの葉の裏には星状毛が密生しているので区別ができる。材は軟材で木目が緻密で細工しやすく、建築、器具材、合板などに使用される。アイスクリームのヘラ。花から採れる蜂蜜は香りがよく重要な蜜源植物となっている。

